
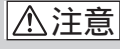


# 警告 安全のために

## 警告表示の意味

「取り付けと接続」および取扱説明書、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。
	注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

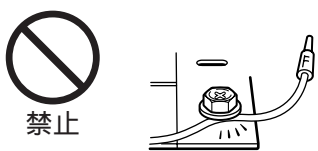
本機はDC12Vマイナスアース車専用です  
大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。



## 運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付ける

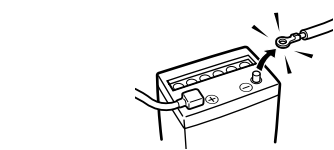
運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をする、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



## 配線作業中は、バッテリーのマイナス端子をはずす

マイナス端子をつないだまま作業をすると、ショートにより感電の原因となります。



## ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

## 注意

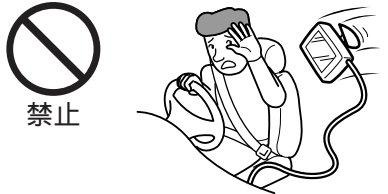
下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

### 付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

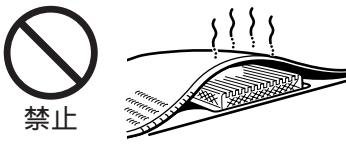
### 安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



### 本機の通風口や放熱板をふさがない

通気口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



### アンテナは車体からはみ出さないように取り付ける

歩行者などに接触し、事故の原因となることがあります。



SONY

# FM/AM カセットカーステレオ

## 取り付けと接続

お買上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

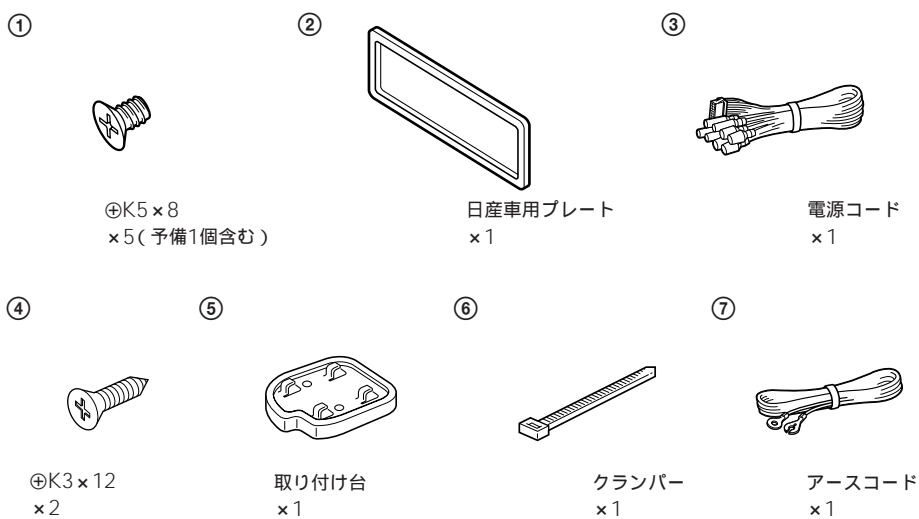
取り付けはお買上げ店に依頼する

本機の取り付けは車種や年式により異なり、専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、この「取り付けと接続」に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電または自動車の損傷の原因となります。

## XR-C3100

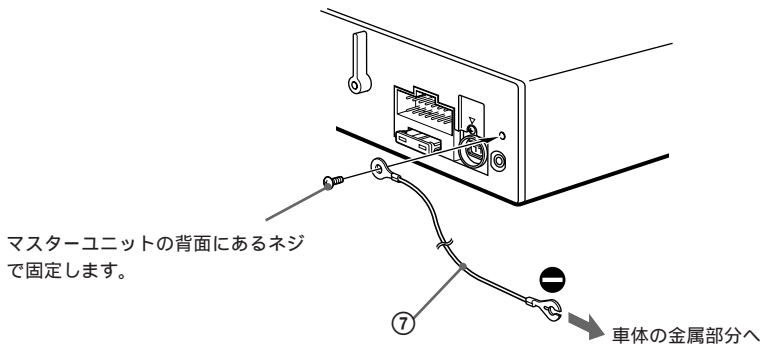
Sony Corporation © 1997 Printed in Japan

### 取り付け/接続部品（付属）



## オルタネータノイズが発生する場合は

オルタネーターノイズ(エンジン回転を上げたときのヒューンと音)が発生する場合には、付属のシャーシアースコード⑦でマスターユニットのシャーシを車体の金属部分にアースしてください。



# 取り付け

## 取り付け場所

- こんな取り付け場所はお避けください。
- 運転の妨げになる所
  - 同乗者の安全を損なう所
  - グローブボックスのふたの開閉や、灰皿の出し入れの妨げになる所
  - ほこりの多い所

- 磁気を帯びた所
- 直射日光やヒーターの熱風などが当たる所
- 雨が吹き込んだり、水がかかる所、湿気の多い所

## ご注意

本機上面にある周波数調整用の4個の穴の調整ネジにはさわらないでください。故障の原因となります。

## 取り付け角度

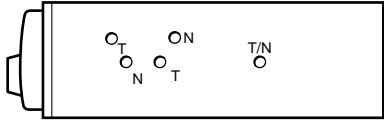
水平から20度以内で取り付けてください。

## センターコンソールやインダッシュに取り付ける場合

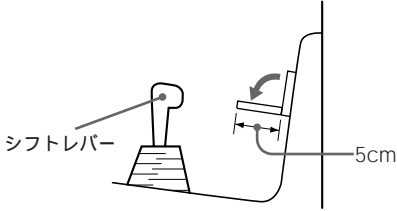
トヨタ車、日産車、三菱車のほとんどは純正カーオーディオをはずして、そのあとに本機を取り付けられます。取り付け可能車はお買い上げ店にお問い合わせください。お車が上記以外のときは、別売りの取り付けキットが必要です。お買い上げ店にご相談ください。

### ご注意

- 純正ブラケットを本機に取り付けるとき、本機側面に刻印されているT(トヨタ車/三菱車用)、N(日産車用)マークにブラケットの取り付けネジ穴を合わせて、付属のネジ①で取り付けてください。



- フロントパネルの開閉のためには、シフトレバーからフロントパネル部まで5cm以上の間隔が必要です。シフトレバーの位置によっては、カセットテープの出し入れがしにくい場合やフロントパネル部が当たる場合があります。車のシフト操作の妨げにならないことを確認してください。

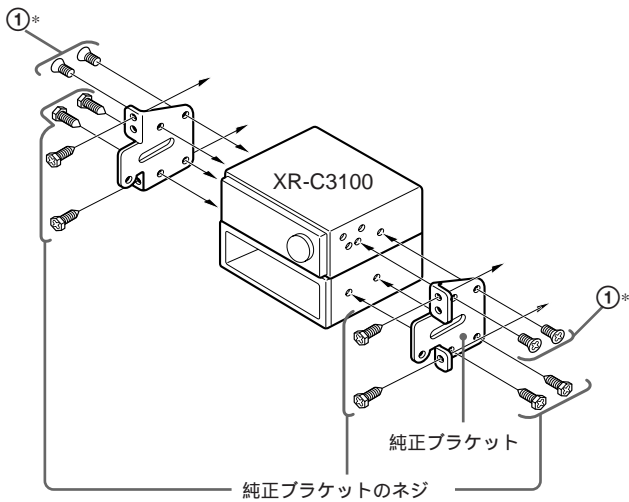


- 本機とシステムアップユニット(MDX-700EQ、CSX-510EQ、CSX-310など)を組み合わせる場合はデザイン上、本機を下段に取り付けることをおすすめします。(動作上は問題ありません。)

**1** 純正カーオーディオを取りはずします。  
センターコンソールやインダッシュから純正オーディオを取りはずし、カーオーディオを取り付けていた純正ブラケットを利用して、本機を取り付けます。

**2** 本機を取り付けます。  
接続例を参照して、センターコンソールやインダッシュに取り付けてください。

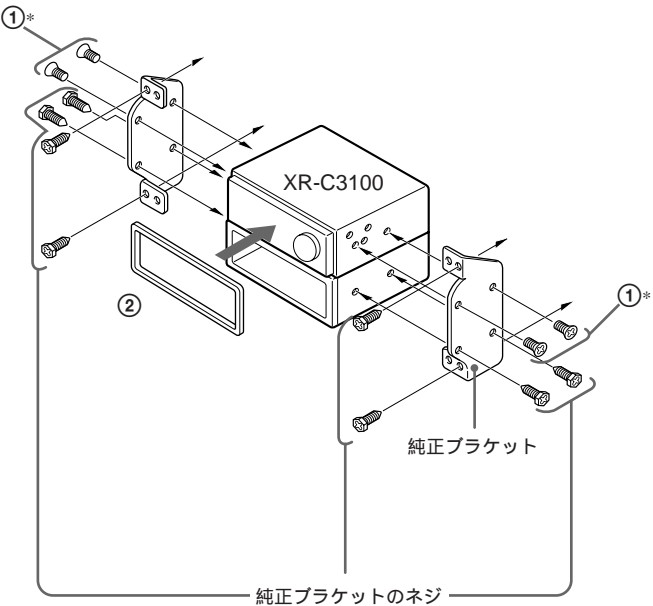
トヨタ車/三菱車の場合  
(イラストはトヨタ車の場合)



### ご注意

- 本機のフロントパネルの表示窓を押したり、ボタンに強い力を加えたりしないでください。
- 本機の上に物をはさみ込まないでください。

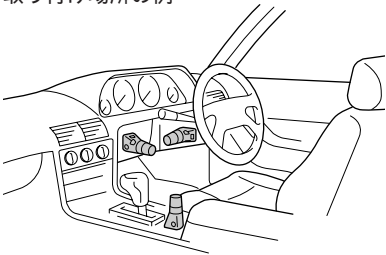
日産車の場合



\* 必ず付属の皿ネジ①で取り付けてください。他のネジを使用すると故障の原因となります。

## ロータリーコマンダーの取り付け(例：ステアリングコラムカバーに取り付ける場合)

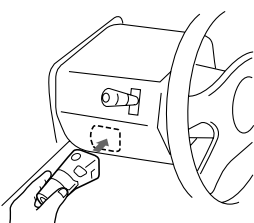
取り付け場所の例



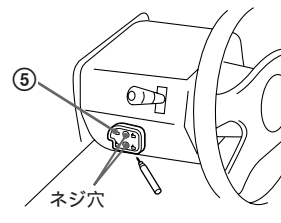
### ご注意

- 運転の妨げにならない場所(ハンドル操作やレバー操作に影響のない場所)に取り付けてください。
- 同乗者の安全を損なうおそれのある場所には取り付けないでください。
- 取り付けるとき、車の配線コードなどを傷つけないよう十分注意してください。
- 直射日光や、ヒーターの熱風が当たるなど高温になる場所には取り付けないでください。
- ロータリーコマンダーのコードは無理に引っばったり、はさみ込み、かみ込みをしないようにしてください。

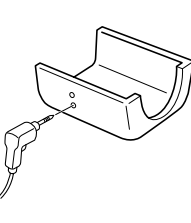
**1** 取り付け場所を決め、取り付け場所の表面をきれいにします。ごみや油などが表面に付着していると両面テープの接着力が低下します。



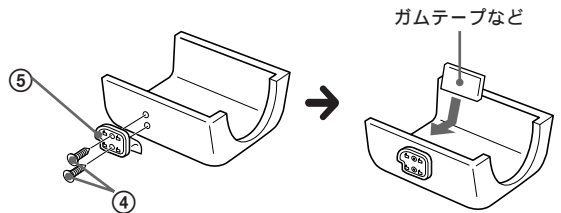
**2** 取り付け場所にネジ穴用の印を付けます。印を付けるには取り付け台⑤にあるネジ用の穴を使います。



**3** コラムカバーをはずし印をした場所にφ2mmのネジ穴を開けます。

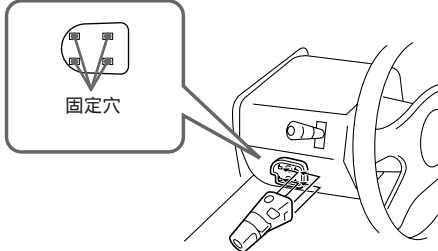


**4** 取り付け場所の表面と取り付け台⑤の両面テープを20～30℃に温め、ネジ位置と合わせながら取り付け台⑤を強く押し付けて接着します。そのあと付属のネジ④で取り付けます。



ネジを締めたあと、コラムカバー裏側に飛び出したネジの先端をガムテープなどで覆い、コード類の損傷を防止してください。

**5** ステアリングコラムにコラムカバーを取り付け、コマンダー底面にある固定穴(4か所)を取り付け台のツメの部分に合わせてコマンダーを取り付けます。



### ご注意

ステアリングコラムにコラムカバーを取り付けるとき取り付け台を固定しているネジとステアリングの回転部分や操作レバーの作動部分、コード類などが接触していないことを必ず確認してください。



# 接続 必ず接続先の機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

## ショート事故を防ぐために

本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして、すべての配線をすませてから行ってください。先に電源コードを接続すると、ショートにより感電や製品の故障の原因となります。

万一、先に電源コードを接続して配線しなければならないときは、はじめにバッテリーのマイナス端子をはずしてください。

ただし、ドライブコンピューターやナビゲーションコンピューターが取り付けである車では、バッテリーのマイナス端子をはずすとメモリー内容がすべて消えてしまうことがあります。

## アンテナブースターの接続

ウィンドーアンテナがついている車種（一部のバーアンテナ車種を含む）によっては、アンテナブースターに電源を供給する必要があります。この場合は青色の電源コードをアンテナブースターにつなぐか、アクセサリ電源から電源を取るようにしてください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。

## パワーアンテナをお使いになる場合

本機裏面から出ている青色の電源コードをパワーアンテナ（リレーボックス付き）に接続してお使いになると、ラジオの電源を入れたときやATA機能を動作させたときにパワーアンテナが自動的に出ます。

## 初期設定が必要なスイッチ

イグニッションキーにアクセサリポジションのない車でお使いになる場合  
パワーセレクトスイッチ

必ず本機底面にあるパワーセレクトスイッチを**③**の位置に合わせてください。この場合、赤色の電源コードは黄色コードと同じところ（バッテリー電源）へ接続してください。パワーセレクトスイッチが**④**の位置のままお使いになると電源が切れずにバッテリーが消耗します。

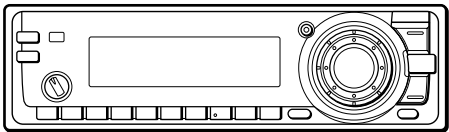
音声出力/音声入力端子をお使いになる場合

音声出力/入力切り換えスイッチ

本機底面にある音声出力/入力切り換えスイッチで、音声出力または音声入力側に切り換えて使用します。

- 音声出力/音声入力端子にパワーアンプなどを接続して、音声出力端子としてお使いになる場合はスイッチを「①」の位置に合わせてください。
- 音声出力/音声入力端子にグラフィックイコライザーなどを接続して、音声入力端子としてお使いになる場合はスイッチを「②」の位置に合わせてください。この場合、フロント音声出力端子、リア音声出力端子はそれぞれ、フロントおよびリア入力端子として機能します。

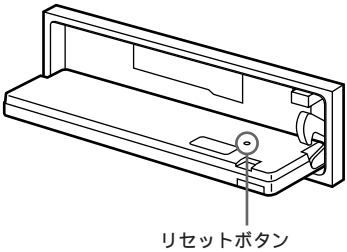
先の細いドライバーなどを使って切り換えてください。  
強く押さないようにご注意ください。



スイッチの位置を変えたときは、電源の接続をしたあとに必ずリセットボタンを押してください。

## 取り付けと接続が終わったら

- ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動くことを確かめください。
- 必ず、リセットボタンをボールペンの先などで押してください。  
ただし、針のようなもので強く押すと故障の原因となります。



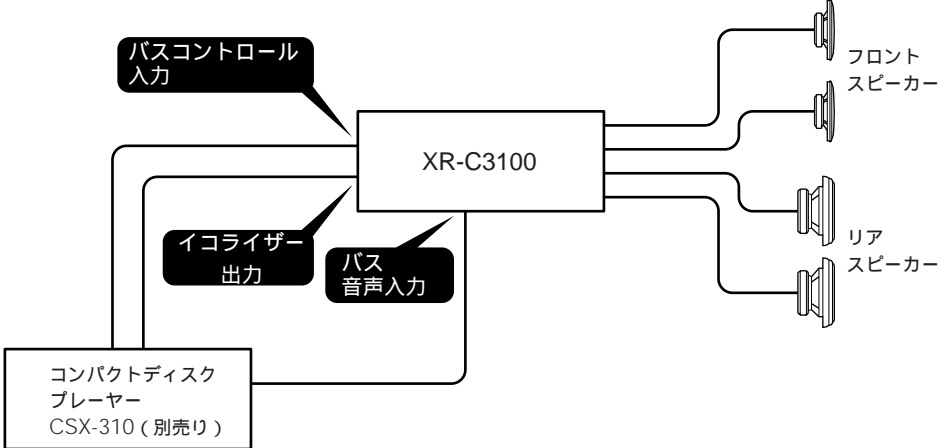
## システム接続例

複数のCD/MD機器を接続するときは、別売りのソースセクターXA-C30などが必要です。

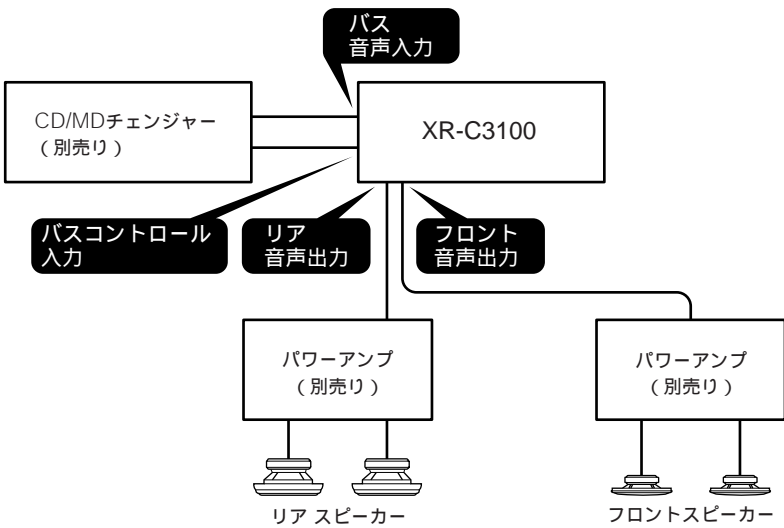
ご注意

イルミネーションが2色切り替えのできる別売りのCD/MDプレーヤーを接続しても、イルミネーションはグリーンのみとなります。

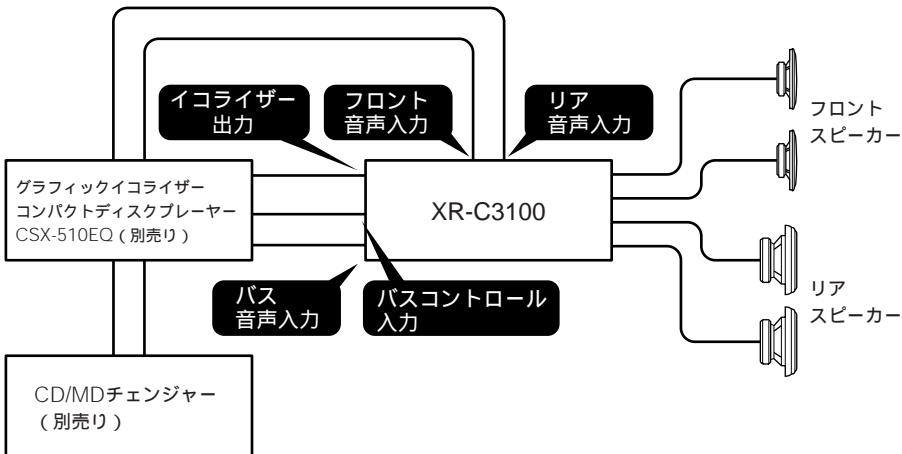
接続例1 音声出力/入力切り換えスイッチを「①」の位置に合わせてください。



接続例2 音声出力/入力切り換えスイッチを「①」の位置に合わせてください。

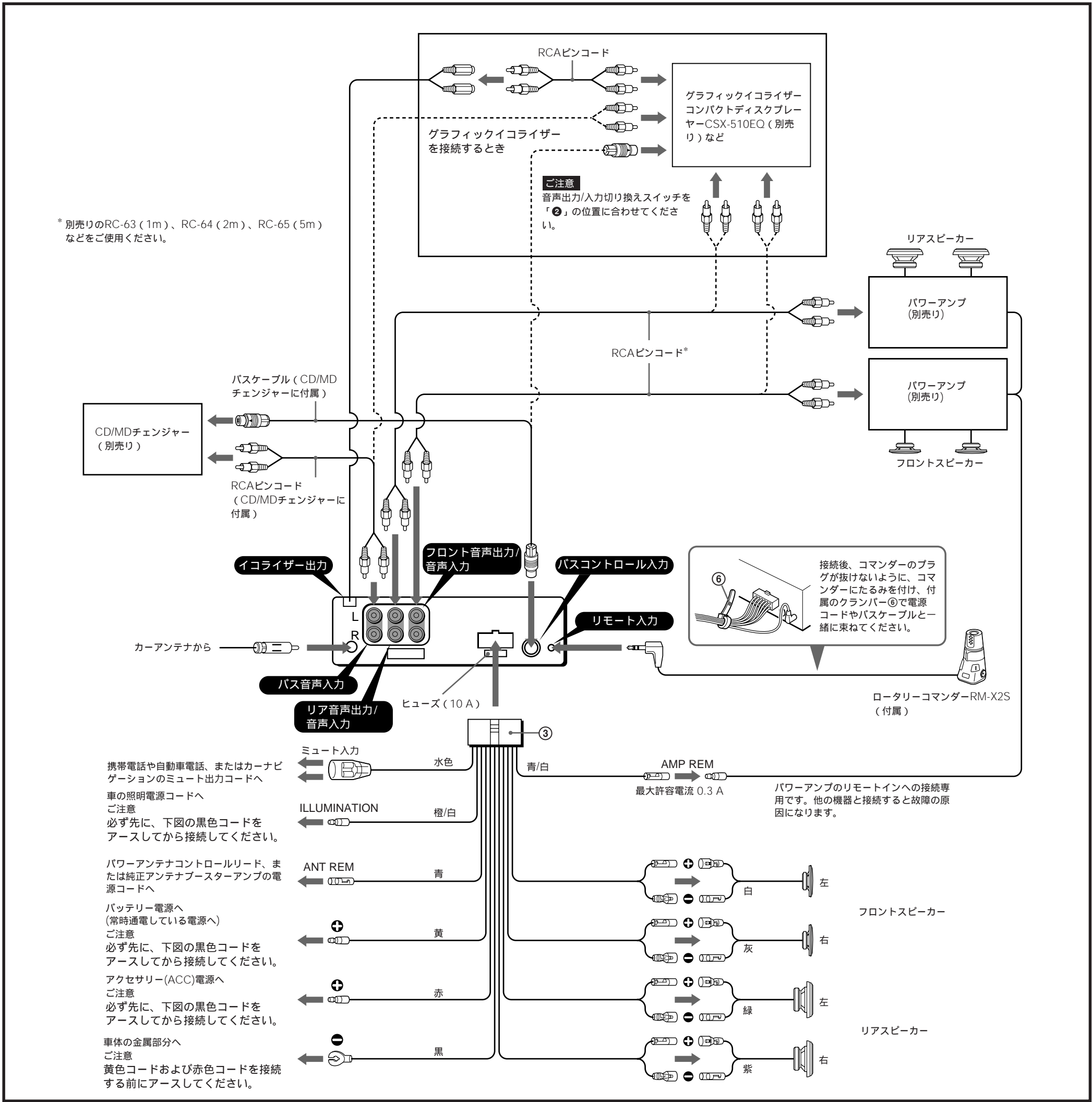


接続例3 音声出力/入力切り換えスイッチを「②」の位置に合わせてください。



## 電源コードの色分け

赤色コード	アクセサリ（ACC）電源入力コード 車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ（ラジオ回路など）につながます。
黄色コード	動作電源入力コード 車のキーに関係なく、常時通電しているところでヒューズの容量値以上の電源が取れるところにつながます。本機のOFFボタンを押すか、イグニッションキーをOFFにすると、メモリー保持用の電流だけが流れます。
黒色コード	アース用コード 車体の金属部分に確実にアースしてください。
青色コード	<ul style="list-style-type: none"><li>パワーアンテナのコントロール用 ラジオの電源を入れたときやATA機能を動作させたときに、このコードから12ボルトのコントロール用電源を供給します。くわしくはお手持ちのパワーアンテナの説明書をご覧ください。</li><li>純正アンテナブースターアンプの電源供給用</li></ul>
ご注意	
リレーボックスの付いていないパワーアンテナは使用できません。	
青/白線コード	パワーアンプのコントロール用
橙/白線コード	イルミネーション電源入力コード ライトスイッチをONにしたときに、電源が入るところに接続します。
水色コード	ミュート用入力コード 携帯電話や自動車電話、カーナビゲーションシステムのミュート出力コードに接続します。



## ヒューズ

- 本体の後面にあるヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、ヒューズに記してある規定容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。規定容量以上のヒューズや針金で代用することは大変危険です。
- 電源の黄色コードを接続するときは、本機のヒューズ容量が車両側（純正ラジオ用バックアップ電源）のヒューズ容量以下であることを確認してください。また、アンプなどを接続したシステムで使用する場合は、総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし車両側の容量が小さい場合はバッテリーから直接電源を引いてください。このことを確認しないと異常が生じた時、車両のヒューズが先に切れ他の機器が機能なくなります。

## スピーカー

- スピーカーを接続する前に、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- インピーダンス4～8Ωのスピーカーをお使いください。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。許容入力の小さいスピーカーを使って音量を上げると、スピーカーを破損することがあります。
- スピーカーの⊕、⊖端子を車のシャーシなどに接続しないでください。故障の原因になることがあります。
- 本機のスピーカーコードどうしをつながないでください。特に⊕端子どうし、⊖端子どうしをつなぐと、故障の原因になります。
- 既設の純正スピーカーコードを使う場合、左右のスピーカーコードの⊖側が共通になっているものは使用できません。そのまま使うと故障の原因になります。
- 本機のスピーカー出力にアクティブスピーカー（アンプ内蔵スピーカー）を接続すると、本機を破損するおそれがあります。アクティブスピーカーの使用を避け、通常のスピーカーをお使いください。